

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

アマミイボイモリ

Echinotriton raffaellii Hernandez et Dufresnes, 2022

富永篤（琉球大学）・松井正文（京都大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：富永篤・松井正文，2026. アマミイボイモリ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 593-597.

Citation: Tominaga, A. and M. Matsui, 2026. *Echinotriton raffaellii* Hernandez et Dufresnes, 2022. In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 593-597.

アマミイボイモリ

Echinotriton raffaellii Hernandez et Dufresnes, 2022

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) B2ab				
基準 A: —	基準 B: VU	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
B2. 生息地面積が 2000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。 a) 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。 【過度に分断】 生息地は、奄美大島、請島、徳之島に限定される。平野部でも開発の影響の少ないところであれば、個体群が存続しているが、市街地周辺では生息は確認できない。奄美大島では森林域を中心に分布しているが、発見数が限られており、生息地が島内でも分断化している可能性もある。 b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。 【判断理由】 森林伐採、道路建設、それに伴う轢死の影響は顕著であり、個体数は減少しつつあると思われる。奄美大島では、以前比較的多くみられた地点で近年全く確認できない状態になっている場所もあり、徳之島でも過去の良好な生息地において、土地の整備により個体数が減少していると思われる場所もある。				
評価分科会： 爬虫類・両生類分科会				

概要

奄美大島、請島、徳之島の平野部から山地にかけて分布し、畑地、公園、森林などのさまざまな環境に生息する。イボイモリの鹿児島個体群とされていたが、遺伝学的根拠に基づいて種が分割された。2 月から 4 月に水際の陸上に産卵する。道路建設や観光地としての公園の整備に伴う、繁殖場所、幼生の生息場所の水たまりの消失、繁殖期の複数個体の轢死によって、個体数は減少しており、生息が確認できなくなった地域もある。

基礎情報

【形態】

全長は110～160 mm、頭胴長55～82 mm。背面、腹面、側面の基色は、黒色で体背面の肋骨末端の突起部分に小さいがよく目立つ赤色から濃い褐色の斑点をもつ。尾の腹面部、総排出孔、前後肢の掌も赤褐色を呈する。幼生は、孵化した時点から灰色の基色に黒斑をもち、頭部は丸身を帯び奄美大島では同所的に分布するアマミシリケンイモリの幼生よりも大型になり、体型も太い。変態が近づくと、上陸個体の体色に近づき、体全体の大部分が黒色になる。

【生活史】

2月から4月に平野の湿地や池、手掘りの水路、山地の池や水路、水たまりなどの水際の陸上に産卵する。多くの場合、卵は落ち葉や土壌の下に隠された状態で発見されるが、時として遮蔽されず、むき出しの状態で見つかることもある。ただし、卵表面は粘着性が高く、多くの場合、土が付着しており、卵の外からはっきりと胚を確認することは難しい。孵化までは1か月かからず、多くの地域では夏ごろまでに変態を完了する。幼生越冬は知られていない。上陸した幼体は数年をかけて成熟サイズに至ると考えられる。12月ごろには繁殖期が始まり、徘徊する雄を見かける頻度が高くなる。精包の授受も陸上で行われる。奄美大島と請島では、別属のアマミシリケンイモリと同所的に分布するが、アマミシリケンイモリに比べると個体群密度は低いと考えられる。

【生息環境】

平野部から山地の畑地、公園、森林などのさまざまな環境に生息するが、いずれの場所でも産卵場所として利用する水場が近くにある。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，草地，田地・畑地，湿地・湿原・細流，ため池・池沼 【陸域_平地部】森林，草地，田地・畑地，湿地・湿原
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域，(2) 里地里山・田園地域，(7) 島嶼地域

【分布域】

奄美大島、請島、徳之島の平野部から山地にかけて分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

これまでに絶滅した地域の確かな情報はないが、過去に生息が確認された奄美大島の地域などで生息が確認できなくなっている地域はある。しかしそもそも、奄美大島、請島での生息密度は低いと考えられ、分布域の増減について評価できるだけの十分な調査は行われていない。奄美大島と請島では、生息密度は極めて低い。奄美大島の個体群に関する過去の文献資料では、もう少し個体数が多かったことを示唆する記述もあり、本来の生息個体数が減少した結果、現在のような低密度になってしまった可能性もある。徳之島でも生

息地に多くの道路があり、毎年多くの轢死が確認されている。

【生息地の現況】

奄美大島の生息地の一部では、林道の建設に伴い、産卵場所、幼生の生息場所となっていた水たまりが消失し、アスファルトで舗装された場所もある。こうした道路建設や観光地としての公園の整備が、本種の生息環境を破壊している可能性が高い。徳之島では、生息地が平野部まで及んでいることもあり、繁殖期になると多くの個体が轢死している。

【個体数の現況】

奄美大島と請島で発見個体数も極めて少なく、幼生や卵の発見も少ないことから、生息密度は低いものと思われる。徳之島は比較的密度高く分布しているが、毎年多くの個体が路上で轢死していることを考えると、地域によっては個体数が減少しているものと考えられる。良好な生息地での個体数は過去と変わらず維持されているようである。

存続を脅かす要因

最も存続に対して影響の大きな要因は、森林伐採と、道路整備、ダムや河川改修、観光地などの整備による生息環境の乾燥化、アスファルトでの舗装と考えられる。さらに良好な生息環境に道路ができることに起きる轢死が本種の存続を脅かす要因になっている。

要因の区分：	(過去)	森林伐採，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，交通事故
	(現在)	森林伐採，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，交通事故

特記事項

長い間、沖縄県と鹿児島県の個体群は単一種イボイモリ *Echinotriton andersoni* と扱われてきたが、両者の遺伝的、形態学的差異が顕著であることを根拠に、2022年に鹿児島県の個体群は別種アマミイボイモリ *Echinotriton raffaellii* として分けられた。鹿児島県の天然記念物に指定されている。沖縄県の天然記念物に指定されている。比較的最近分類変更があったため、地方自治体のレッドリストや保護に係る法令指定、各種文献等では、分類変更前のタクソン（広義イボイモリ）として扱われている場合があることに注意が必要。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—

第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【鹿児島県】絶滅危惧Ⅰ類

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- Dufresnes, C. and A. Hernandez, 2022, Towards completing the crocodile newts' puzzle with all-inclusive phylogeographic resources. Zool. J. Linn. Soc., zlac038.
- Nishikawa, K., A. Tominaga, and M. Matsui. 2022. Morphological and taxonomic reexamination on a crocodile newt recently described from Japan (Urodela, Salamandridae, *Echinotriton*). Zootaxa, 5196 (2): 223-234.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Echinotriton raffaellii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Echinotriton raffaellii* is listed as VU under criteria B2ab.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 2,000 km², and estimate indicating at least two of a-c:

- a. Severely fragmented or known to exist at ten or fewer locations.
- b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:
 - (i) extent of occurrence
 - (ii) area of occupancy
 - (iii) area, extent and/or quality of habitat
 - (iv) number of locations or subpopulations
 - (v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest, Grassland, Farmland, Wetland/Marsh/Stream, Reservoir/Pond 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest, Grassland, Farmland, Wetland
Threat types:	Logging and wood harvesting, Transportation infrastructure construction, Dam/River structures construction, Vehicle collision

Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora.
---	--



執筆者:	富永篤（琉球大学）・松井正文（京都大学）
Author:	Atsushi Tominaga and Masafumi Matsui

公表年月：2026 年 3 月